

今日の説教のポイント<ヨハネによる福音書2章1～11節>

今日は合同礼拝ですから、子どもたちのために書きます。

①イエス様はお母さんに冷たい？

イエス様は、お母さんのマリアさんから、「ぶどう酒がなくなりました」と言われて、「婦人よ、私とどんなかかわりがあるのです」と答えました。普通に考えると、お母さんに向かって「婦人よ」なんて、冷たくて変な気がします。でも、イエス様がこういう言い方をされるからには、何か意味があるのです。それが分かったから、ヨハネさんはこの出来事を書き残したのです。では、その意味とは何でしょう？

②それでもイエス様を信じていたマリアさん。

お母さんのマリアさんは、イエス様から、「婦人よ、私とどんなかかわりがあるのです」と言われて怒ったのでしょうか？ いいえ、召し使いに、「この人の言う通りにして下さい」と言いました。イエス様は必ず何とかしてくれる、と信じていたのですね。なぜでしょうか？ 神様がイエス様を与えて下さったクリスマスの晩のことを考えたのかもしれませんがね。「この子は神様が私たち皆を救い、喜びを与えて下さるために与えて下さった子なのだから」、そう堅く信じていたのでしょう。

③イエス様は「マリアさんの子」というよりも「みんなの救い主」。

これで、イエス様がお母さんに言った言葉の意味が分かって来ました。イエス様は、ちゃんとこの後、マリアさんの願いを聞かれました。それは自分のお母さんが願ったことだからではないのです。神様がそうすることを良しとされ、喜ばれることだったからです。いくら自分のお母さんが言うことだって、それが間違ったこと、神様が喜ばれないことだったら、聞き従うのはおかしいですね。また、子どもだからと言って、お母さんに何でもおねだりしていいわけではないのと同じです。私が小さい頃、私の父はどうしようもない人でした。でも、日曜学校に行き出し、私たちを造り、私たちをだれよりも（お父さん、お母さんよりも！）愛して下さっている神様がおられることを知って、とても慰められ、励まされました。「イエス様を送って下さった神様がいれば大丈夫だ！ この神様こそ、私の一番のお父さん、お母さんなのだから！」と。